

第2回蒲郡市東港地区まちづくり協議会 議事録

開催日時	令和6年11月20日（水）午後2時から午後3時40分まで
開催場所	蒲郡市役所3階304会議室
出席者	<p>【会 長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋工業大学大学院工学研究科教授 秀島 栄三 <p>【委 員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋大学大学院 工学研究科教授 恒川 和久 ・名城大学 理工学部建築学科教授 生田 京子 ・蒲郡商工会議所 会頭 小澤 素生 ・中部地方整備局 三河港湾事務所長代理 副所長 渡邊 弘 ・愛知県東三河建設事務所長 齊藤 保則 ・愛知県三河港務所長 塚上 久司 ・愛知県都市・交通局 港湾課長 堀尾 明宏 ・愛知県都市・交通局都市基盤部都市計画課長代理 同課土地利用計画グループ課長補佐 林 昌司 ・蒲郡市建設部長 鈴木 伸尚 ・蒲郡総代会蒲郡町部地区会長 細井 政雄 ・がまごおり市民まちづくりセンター代表 金子 哲三 ・蒲郡市都市計画審議会委員 早川 康子 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設部 みなとみらい課長 成瀬 貴章 ・建設部 みなとみらい課課長補佐 権田 吉宏 ・建設部 みなとみらい課主事補 深谷 実生 <p>【委託業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒲郡東港パートナーズ特別共同企業体 代表 忽那裕樹ほか2名
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 計画検討状況の時点報告について 2 その他
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・出席者名簿 ・委員名簿 ・蒲郡市東港地区まちづくり協議会設置要綱 ・計画検討状況の時点報告について
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 会長挨拶 <ul style="list-style-type: none"> みなととまちを繋ぐこの取り組みのためには、産学官が一丸となってアイデアを出し、いい計画にすることが大事だと思います。そのために皆様に活発な議論をしていただくようお願いします。 2 計画検討状況の時点報告について <ul style="list-style-type: none"> ・事務局説明

3 質疑応答

A委員：

歩道の活用が12月から始まることと、先行整備について、どういったタイミングでどういったプレイヤーが出てくるのか、スケジュール感について教えて欲しい。

事務局：

先行整備については予算確保が伴うことも含めて粛々と進めていきたいが、歩道の活用などについては今からでも取り掛かることができる取り組みである。整備計画を進めていく過程から公共空間の活用を始めて、それらを日常化する風景を作り、まちの賑わいを創出することを継続していき、整備後においても活用していただけるように、まちの人に関わっていただいて活動を始めていきたい。事業に関するスケジュールについては、現在、空間デザインの検討をしており、合わせて民間事業者との対話の場を進めており、来年度以降に設計の業務を進めていきたいと考えている。

課題として、道路の市道降格、都市計画変更などがあるため、これらは年数をかけて取り組まなければいけない。

すぐに取り掛かれるものとして、歩道等の活用を市民の方々と一緒に取り組んでいきたい。

A委員：

説明のあった道路のイメージが実現するのは10年20年とかなり先で、それまでの間は、現状の空間の中で民間の方に活用していただく、そこには整備が必要ないということか。

事務局：

何年か先ということについては、様々な手続きを鑑みて目標としているのは5年以内に少なくとも工事着手したいと考えている。それまではまちでの活動が続けられればと考えている。工事期間に入ると、使えないところと使えるところが出てくるため、調整しながら継続していきたいと考えている。

A委員：

現在ワークショップで活動されている方たちを相当先まで引っ張っていかなければいけないなど、難しいところがあるように感じる。

もう一つが社会実験の結果により歩道の幅員が不足しているため広げるとする一方、イベントがないときは歩道が広すぎると閑散として寂しくなってしまう恐れがないか。軸線として今までのリンクアンドプレイスからプレイスにしていく考えだとするならば広場的な居場所となるような場所づくりにシフトしたほうがいいと感じる。また、歩道を広げて出店などの場所を現在の車道側に展開していくことになると思うが、ほこみちの他の事例では民

地との共同利用が考えられている。今回は公共空間で完結し過ぎてアピタ側を裏にしているように感じるため、もう少し考えるところがあるのではないか。

南北軸の先行整備といっても大分時間がかかりそうに感じるため、そこまでどうやって繋いでいくのが気になる。

事務局：

市民をどこまで引っ張っていくかについては、現在、まちプロジェクト会議の分科会で将来的なエリアマネジメント組成に向けた活動が進んで、定例的な会議以外で自主的な議論が進められているため、現在、そういった素地が市民レベルでできつつあるのではと感じている。そういったものの受け皿として行政が支援していくことを続けていけば、しばらく継続していけるのではと考えている。また、継続していくことで将来のエリアマネジメント組織組成のきっかけになるのではと期待している。

A委員：

それがあるからこそ早く空間整備の実現ができたほうがいい。

事務局：

皆様のご協力をいただいて、スピード感をもって取り組んでく。

ほかの都市のまちづくりで、活動を支える側に回ってくださいと言ってもなかなか出てこないが、10人以上の方たちが仕組みづくりに入ってくれている。

空間デザインの過程でも蒲郡市東港地区まちプロジェクト会議（以下、まちプロ会議）の方と議論・共有をしているため、整備できたころには、活動が増えている状況をつくることのできるのが良いと考えている。

デザイン面では、道路としての設計ではあるが、公園的にそこに行く理由があるようにしていく工夫をしていく必要がある。

アピタ側のほこみち活用想定としては地先型利用で民地から出て使えるようにして活用が進んでいくとよいが、事業者との話によるところである。また、アピタ側に向かって座る場所もデザインしている。日頃通行する中でも休める場所としてアピタ側も表としてデザインしている。広がり過ぎていると閑散としたイメージになるが、ヒューマンスケールで歩行帯、緑地、歩行帯、緑地といったように分けて、広がり過ぎているのを解消できるように考えている。

B委員：

観光客が駅から降りて水族館まで行く動線に迷っている。説明のあった南北軸の道路は引っ張る力を描いて欲しい。

全天候型広場の提案は非常に良いと思うが、防潮堤の前にこういった構造物を港湾管理者が認めてくれるのか。

事務局：

水族館への動線として現状は、マリンロード（松原線）の歩道を利用いただいている。土日は一定の流れがあるため迷われることがない。今後、港の整備を進めていくことで駅から竹島へ海を眺めながら行くことができる動線を作っていきたい考えであり、その途中には竹島水族館に行くことができる。そういった歩行動線を作ることが重要であると考えている。

堤防の前に構造物を作る件については、前向きに相談をいただいている。

C委員：

堤防前の構造物については、具体的な規模や構造などについて協議することになる。蒲郡市から竹島ふ頭をこういった使い方をしたいという相談を受けており、三河港港湾計画の改定に向けた作業の中でいろいろなことができるような要望に沿えるよう進めている。具体的な協議が進めばできるのではないかと考えている。

D委員：

デザイン面から竹島の方面に視線が行くような工夫があるのか。

事務局：

前回のまちづくり協議会にてマスタープランのたたき台として示した中で、東の方へ小規模店舗などを展開しつつ、海側には花畑のようなもので滞在の場所を作りながら水族館まで繋いでいって竹島まで誘導をしたい考え。

都市計画変更が必要になるため、段階ごとに整備を進めていくことになる。竹島までの動線を先に整備できると良いが、他の条件も含めて検討を進めていきたい。

E委員：

バリアフリーポンツーン「マンボウ」は23年経過し、全面改修をしていただける。このマンボウを整備する前に使う人と整備する人でどういった整備が必要なのか、バリアフリーのチェックをするといった議論をした。

みなとオアシスの活用について、これまでも多くの市民に関わってもらって議論して利用が制限されきた経緯も聞いていただきたい。市民が行うイベントで300人規模のものはすぐにできたが、時代の変化とともに市民も慣れてきて、例えば竹島ガーデンピクニックは5000人を超えている。市民団体でやれると思っていた規模と実際にここの空間を使う規模が変わってきてしまって、大規模催事に近い企画が作られる時代になっている。これまで市民がやってきたイベントの背景も確認して計画に反映して欲しい。竹島ふ頭の夜間照明のデザインにある歩行空間は間接照明

で良いイメージが作られているが、小さい子供が参加するイベントについて柵がどこまであるかなど安全性の問題や蒲郡まつりの際には通常以上に警備体制をとっている。海に落ちると拾い上げる場所が無く、海際の照明がないので落ちているかもわからないため、安全確保のための照明や柵の整備を検討して欲しい。クラブフェアは2万人を超える規模になっており、以前開催されたsea 級グルメでは動線やバリアフリーについてどうしたらユニバーサルなイベントができるか議論した。その時はまだ難しいとなり、いろいろな市民団体が使いたい話があったが、それらは整備ができてから、もしくは安全性が確保できてからにしようとなり、民間に門戸を開いていない背景がある。

民間にチャンスを与えるのはいいが関係者の伴走や関わりを持つことを考えていただきたい。

事務局：

いただいた意見を踏まえて計画検討、みなとオアシスの活用を考えていきたい。

E委員：

以前、道路活用の際にアピタの中の店舗が出店してもらえないかと話しをしたことがあり、アイスクリームの店舗が販売してくれた。こういったことが日常的なものになっていく。市民の方が活用するのもいいが、日常との連携も考えていただきたい。

事務局：

アピタ蒲郡店の店長様ともコミュニケーションをとっているため、いただいた意見も含めて取り組んでいきたい。

F委員：

2年前に港湾法の改正によりみなと緑地PPP（港湾環境整備計画制度）が創設され、港湾緑地に民間資金を使って賑わいを作りながら緑地も管理してもらおう制度ができている。南北軸のうち水族館に向かっていくところが緑地になっているのでこの制度をうまく活用できると安全性なども確保しながら賑わいを作っていくことができると思う。他都市では神戸と大阪が先行して活用している。ぜひ、中部管内の1号を蒲郡で実現していただきたい。

海側から見ると竹島ふ頭が玄関になるため、海から見た視点をパース図に入れていただきたい。船から蒲郡を見ると違った景色がある。

D委員：

船が接岸する場所は今後も同じ場所になるのか。

事務局：

竹島ふ頭は三方岸壁があり、先日は竹島側の3号岸壁に伊勢湾フェリーが接岸している。駅から正面の2号岸壁には三谷水産高校の愛知丸が接岸しており、市制70周年事業で寄港した帆船み

らいへも2号岸壁に接岸している。基本的には3号すべての岸壁が利用されている。

D委員：

海から見たパースをどの視点で考えていくのか

事務局：

海から見た視点のスタディも実施している。東西方向の海辺になっているところを含めた風景を考えている。パースに反映していきたい。

G委員：

南北軸の詳細が示されているが、東西に対する流れがどうなっているのかわかりづらい。

東西方向に歩いていく人やランナー、自転車など様々な人が横断するであろう通路と南北軸がどう絡んでいくのか。それに対して、ロータリーを含めて自動車と人の住み分け、わかりやすいのは海沿いに緑地があり緑地沿いに車が走っている例があるが、マリンロードと緑地に微妙に間が空いているので、整備するところがマリンロードからは海が見えなさそうである。そういったことを理解した上で南北軸が整備される緑地との関係がどうなっているのかということなどが気になる。

南北軸を計画する際に、南北軸以外の理解が深まる図などがあると分かりやすい。

事務局：

前回の協議会で示したマスタープランたたき台の資料では、東西方向に人々が歩いて竹島まで行くデザインを示している。その繋がりとなる導入部分として、今回、南北軸を示している。

資料15ページで竹島ふ頭の歩行動線を示しており、東へ歩行動線が伸びている。その先は、右手に海を眺めながら、左手に店舗などが立ち並んでコンテンツが充実しており、その先に水族館の建て替え用地として考えている土地がある。

マリンロードは堤防より陸側に整備された都市計画道路であるが、沿線が住宅利用も多くみられることも含めて、東港地区の動線としては考えていない。南北軸から港へ誘導して海側を歩いていただくことを考えている。

G委員：

将来的に商業施設を配置している案に対して駐車場も店舗の裏側に配置されている中で、例えば、堤防の背後にある道路の交通量がどうなっているのか、渋滞があるのであればそれが解消されるような、あるいは将来発生する交通量を踏まえた南北軸の作り方になっているのか。

事務局：

歩行者中心のまちづくりとして検討しており、伊勢湾フェリー特別運航の社会実験では、駅が近い立地のため自動車利用が予想より少ないという結果も見えた。現状の交通量を把握して、将来発生交通量の予測値もオンして検証したところ、車線数を減らすことや交差点へ与える影響としては問題ないことを確認し、警察との協議も進めている状態である。堤防の背後にある道路については、区画整理の区画道路であるため現状の交通量は少なく問題ないと考えている。そのうえで、南北軸の検討を進めてきた。

H委員：

東港が三河湾ラリーの会場となっておりアクセスしやすく一番観戦しやすいが、今後どのようなようになるのか。

駅から海がまっすぐ見えるため、海に続く道が整備されるのはとても良いが、ふ頭の先端にモニュメントができると海が見えないのではないか。

住民は駅の北側に多く住んでおり港側は住民が少なく、普段はいかない場所なので、いかに市民に足を運ばせるかが重要だと思う。

今、いろいろなことをやりたい人が出てきているとのことだが、大人ばかりのようだ。子供たちを育てていくことが大切だと考えており、小さい子や小学生がいつもそこで遊び、中学生や高校生が勉強できるなど、若者達が普段行く場所になるといい。噴水だけでは不十分なので、他の設えも必要である。

サイクリングロードも欲しい。マリンロードに自転車が通行できる場所を作って竹島まで行けるようになるとよいが、海側を通れるようにしてもらってもっと良い。

竹島のライトアップがあった時に安全に竹島まで歩けた。まちを明るくして子供目線で安心安全を重要視していただきたい。

事務局：

東港はラリーのコースとして一番人気があるコースである。計画づくりで東側が進んでいない理由の一つとしてラリーのコースとして使う構想が関係する。今は何もない中でコースとして使っているが、整備後は普段は歩くところだがラリーの際には特別にコースとして使えるようにするため、競技の主催者とコースのデザイン検討を始めているところなので、ラリーとしても使う前提で進んでいる。

モニュメントについては視界を遮るということにならないと考えている。

子供や自転車のことについては、いろいろな人に来てもらえる工夫が必要だと考えているが、港や道路としてなど本来の利用の中で相談しながら、できることを考えていきたい。東港で全てが

賄えない時は、周辺のエリアで賄うこともあると考えている。

リーディングプロジェクト「みらいキャンパス」の事業とも連携しながら外で楽しむものについては東港で、という風になるといいと考えている。

ライトアップについては、ポートタウンまちづくりデイズの際に特徴的だったのが、日中は家族連れが中心であったが夜間になると20代の若者が増えたという状況が確認できた。いろいろな人に訪れていただく意味では照明の力というのは大事だと考えている。

世代全般的に照明については非常に良いと評価をいただいているので考えていきたい。

みなとオアシスのヒアリングで参加者が大人ばかりだということについては、参加者から企画を聞く中には、子育て支援に関する活動をしたい方がいる。子どもたちがアートを通してまちづくりに関わるきっかけができないかという考えをお持ちで、そういったことで蒲郡の子どもたちが港に親しみを持ってもらえることが期待できる。

I 委員：

マリンロードに面している元蒲郡荘についても、東港の計画でどの程度の観光客が見込めるかなどがあれば、こういった土地についての活用方法が変わってくるのではないかと思うため、市からは全容の情報を早く出してほしい。また、条例などで民間の土地についてある程度の利用目的が達成できるような緩い縛りがかけられるとよいのではないか。

事務局：

市としては、まずは本協議会に情報を示した上で順次進めていきたい考えで本日報告をさせていただいている。

蒲郡荘については、愛知県の教育関係の保養所であったものを閉鎖して現在取り壊しされているが、その後はおそらく公募などで売却されるのではと思われる。東港周辺にある土地としては活用できる敷地であると思われる。主に埋立地を対象としたものとなるがサウンディング調査として民間事業者との対話を進める中で、こういった土地についても見ていただいて、活用の可能性を聞くことができれば、活用に進むことも期待できると考えている。

B 委員：

温泉のまち蒲郡と言いながら温泉がないため、温泉が欲しいという市民の声が非常に多い。ぜひ、検討してほしい。

J 委員：

南北軸のデザインコンセプト案について「つなぐ・みなと・みらい」と示されているが、「つなぐ」を真ん中にしたらどうか。「みなと・つなぐ・みらい」、「みらい・つなぐ・みなと」のどちらか

か。

D委員：

案で示している言葉の並びに意味はあるか。

事務局：

みなととつなぐ、みらいとつなぐ、という意味で最初に「つなぐ」とした。

G委員：

「みなとみらい」がほかのエリアで使われているのが気になった。

I委員：

南北軸のコンセプトであるが東港地区全体のコンセプトは。

事務局：

今回、先行整備を進めたい南北軸のコンセプトを決めたいという事務局の考えがある。全体については、前回の協議会でたたき台を示しているが、今後、民間資金を活用した計画検討を進めていくため、決めきれない要素がある。東港地区という名称についても将来的には変更したい。それが全体のコンセプトと関係してくると考えている。

D委員：

「みなと」を最後にすると場所を示すように見えるので最後は「みらい」がよいと思う。

I委員：

「つなぐ・みなと・つなぐ・みらい」ではどうか。

秀島会長：

本日、コンセプトを決定する必要があるのか。

事務局：

協議会でいただいた案を預かり市長に決めてもらう形でよければそのようにさせていただく。

秀島会長：

それでは、事務局案の「つなぐ・みなと・みらい」、協議会案の「みなと・つなぐ・みらい」、「つなぐ・みなと・つなぐ・みらい」の3案とします。

秀島会長：

本日の議題については、委員から出た意見を助言という形で事務局に預ける。

特に強い反論はなかった。前向きな提案、事務局からの納得できる回答があった。本日、示された検討内容については、概ね事業実施に向けて問題ないと考える。事業実施を早く、という意見

	<p>もあった。委員からの異議がなければ、調整事項も多いと思うが、今回の案について協議会として了承ということによろしいか。(異議なし)</p> <p>4 その他 民間活力導入に向けたサウンディング調査の実施について事務局説明</p>
--	--